

第2回 室蘭港カーボンニュートラルポート協議会 議事概要

日時：令和4年11月25日（金）10：30～11：50

場所：室蘭市防災センター研修ホール、オンライン（Zoom）

■ 前回協議内容と本日の目的について

事務局より、「議事資料」（資料3）を用いて、前回協議内容と本日の目的についての確認が行われた。

■ 室蘭港の温室効果ガス排出量の推計状況について

事務局より、「議事資料」（資料4）を用いて、室蘭港の温室効果ガス排出量の推計状況の報告が行われた。

- ・室蘭港におけるCO₂排出量の推計値は、2013年度321.2万トン、2020年度159.2万トンで、2013年度比の削減率は-50%と推計した。
- ・室蘭港においては、これまでの各事業所におけるCNへの取り組みや、バイオマス発電所の立地及び石油企業の再編のため、北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）の温室効果ガスの削減目標である2013年度比48%削減を達成している状況。

以下非公開（報道機関退出）

■ 室蘭港CNP形成計画骨子（案）について

事務局より、「議事資料」（資料5）を用いて、室蘭港CNP形成計画骨子（案）の説明が行われた。

■ 室蘭港CNP形成計画イメージ（案）について

事務局より、「議事資料」（資料6）を用いて、室蘭港CNP形成イメージ（案）の説明が行われた。

■ 質疑応答・意見徴収について

事務局（室蘭市 港湾部 長澤課長補佐）の司会により、ご参加の各社・団体より、議事3、4の「CNP計画骨子（案）とイメージ（案）について」を中心に、ご意見・ご質問頂いた。

- ・温室効果ガスの削減目標について、事業撤退等による大幅な削減分を除いた数値等での算定方法も検討願いたい。
- ・国が出している46%という目標は経済活動の減少による排出量削減に関して明確に区別されていない。カーボンニュートラルは地球全体でCO₂を減らすことを目的としているため、室蘭港としての排出量削減に事業撤退が含まれていても違和感はない。
- ・洋上風力産業の集積は、どのように脱炭素化を数値化するのか。
- ・CNPというと、港のカーボンニュートラルを目指す取り組みであると認識しており、港湾ターミナル外の動きや排出量を主題として扱うのは違和感がある。
- ・船舶の燃料転換に関する国際的な動きとしては、各国、IMO等の国際機関、船級協会、大手船会社等が一体となった協議が進んでいる。